

◎新年の雜誌界

▲女子の友 (一七四號)

相變らざる多方面に亘りて材料豊富、戦後の經營は此誌上にも絶叫せらるる宛に角女學雜誌中に於ては重きをなすべし

▲明治の家庭 (第二卷第一號)

口繪の西洋畫頗る好評他は別段の事もなし

▲明治の婦人 (第一卷三號)

發刊以來日淺けれども新年號は中々よく整頓せられたり、内容は修養的文學的に稍多く傾けり、最初の主張を實現せんには今少しく實用的方面に重きを置くの必要なきか、

▲日本の家庭 (第二卷第五號)

挿繪の數多きと用紙のよきとは家庭雜誌中の隨一である、そして印刷が色まざりなので大層賑やかに見える、新年號からは頁數も少し増して、子供欄など設けられた、同文館發行だけありて疏石に印刷の値があると見えたり、右の外、女子と家庭とに關する刷物は數限りがないけれどもあまりくたくしければおきつ、

新 刊 案 内

▲女子文藝

第一卷第一號

毎月一回一日發行 定價一冊金拾錢

戦後の經營が雜誌界に迄も及びたる中に、女子の理想的修養を目的としては先に明治の婦人あり、今また家庭に趣味を供給し併せて女子の修養に資せんとする希望を以て本誌は生れたり、論點には高嶋平三郎氏の家庭教育雜觀、鹽井雨江氏の家庭の缺點などあり、其他家庭、文藝、雜錄、女子文藝、等の諸欄、材料豊富にして面白し、口繪と挿繪との數多きは讀者に受けよかる可し

會 報

明治卅九年一月入會者

- 北海道釧路港浦見町
- 岩手縣盛岡市内丸十三番戶
- 臺灣嘉義小學校
- 岡山縣岡山市上西川
- 三河國豊橋町東八丁九九
- 愛媛縣松山市久保町四〇
- 岡山縣兒島郡長瀬村大字大畠

- 萬 澤 初子
- 萱 場 久 惠
- 上 野 喜 一 郎
- 山 根 夏
- 海 寶 ち ば を
- 濱 と み
- 氷 山 香

備前國岡山市西中山下深抵幼稚園
越後國若船郡關谷村下關
岡山縣備中國玉嶋町

P. O. Box 1075 Seattle Wash. U. S. A.

會費領收 自明治三十八年十二月十八日
至明治三十九年一月廿七日

金額 年 月 日

一〇	三八、一二	木内成
一〇	三八、一二	和田實
五〇	三八、一二—三九、四	吉川さい
五〇	三八、八—三八、一二	用瀬嘉代
二〇〇	三七、五—三八、一二	岩川いさ
一〇〇	三八、一一—三九、八	萱場久惠
二〇〇	三七、一一—三九、六	東條順
一〇〇	三八、七—三九、四	廣瀬まさ
七〇	三八、七—三九、一	土井たま
一〇	三八、九	船木やすえ
一〇	三八、五	中尾幾重
二一〇	三七、四—三八、一二	東基音
四〇	三八、九—三八、一二	中村五六
一二〇	三八、一—三八、一二	小松ちか
三〇	三八、一〇—三八、一二	下田たづ
一一〇	三八、二—三八、一二	根來政衛
一二〇	三八、一一—三九、一〇	谷久萬

六〇	三八、七—三八、一二	岡本ふん
六〇	三八、七—三八、一二	阪井ぬい
二〇〇	三七、八—三九、三	白樫よしの
二二〇	三八、三—三九、二	菊地のりよ
一一〇	三八、一—三八、一二	石井しげ
一一〇	三八、三—三八、一二	下瀬龍野
六〇	三八、七—三八、一二	須子とみ
二二〇	三八、四—三九、三	清水常次郎
一〇〇	三八、七—三九、四	木村茂枝
七〇	三八、六—三八、一二	中屋とみ
二二〇	三八、七—三九、六	木原いと
五〇	三八、九—三九、一	菅野きし
三〇	三八、九—三八、一一	鹽見かめ代
二二〇	三八、一—三九、一二	桑郁ます
二二〇	三八、一—三九、一二	久場つる
一〇〇	三八、八—三九、五	八阪さだ
五〇	三八、一〇—三九、二	大川浪
二〇	三八、一一—三八、一二	福田米
一〇〇	三八、一〇—三九、七	奥宮真
一〇〇	三八、四—三九、一	清水光
一五〇	三八、二—三九、四	宮地榮
一五〇	三八、一—三九、三	宮地ますえ
六〇	三九、一—三九、六	上野喜一郎
一〇〇	三八、一二—三九、九	高橋さき